

# 第7学年 英語科 学習指導案

指導者 京都市立向島秀蓮小中学校 7年担当 森田 純子

1 単元名 This Year's Memories (“NEW HORIZON English Course I” Unit 10 参照)

## 2 単元の目標

チームステージ(5、6、7年生のこと。以下「TS」)京都散策ウォークラリー(以下「WR」)を経験したことがない5年生に分かるように、WRの紹介ができ、外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるような京都の魅力を伝えることができる。

## 3 単元の評価規準[記録に残す評価のみ記載]

|              |   |
|--------------|---|
| 話すこと<br>[発表] | 思・TS 京都散策 WR のことや京都の観光地の説明を、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話すことができる<br>態・TS 京都散策 WR のことや京都の観光地の説明を、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。 |
|--------------|---|

## 4 生徒について(向島秀蓮小中学校では、義務教育学校として1~9年生までを生徒という呼称で統一)

- ペアワークやグループワーク、異学年交流を行っており、相互交流をしながら、前向きに学習している。
- 英語を苦手としている生徒が多いため、帯学習では、様々な文法事項、単語を使って話す機会を増やし、少しづつ定着を図っている。
- TS 京都散策 WR では、5~7年生のグループで観光地を巡りながら、外国からの観光客に観光地の説明をする。6年生がリーダーとして活動し、5年生はフォロワー、7年生はサポーターとしての参加となる。5、6年生が観光地紹介を行うため、7年生も昨年度経験しているが、忘れている生徒も多いと思われる。

## 5 本単元と研究の視点との関わり

|           |  |
|-----------|--|
| 【学習評価】    | ・学習した言語材料を生かしつつ、TS 京都散策 WR のことや京都の観光地のことをまとめるために、中間交流では「7年生らしい紹介にするにはどのような表現ができるのか」という視点で進めていく。また、その後の Step by step や Communication time でのペアやグループの言語活動による交流で生かせているか確認していく。<br>・Warm-up、Small Talk では「5年生に分かってもらうために、どのような紹介の工夫をするとよいのか」という視点で全体共有をし、ペアワークを通して相手意識をもった紹介にできるようにする。 |
| 【言語活動の充実】 | ・単元の学習内容を生かしながら、昨年の京都散策のことを5年生に伝えられるように、また次時での5年生の助けになるように、外国からの観光客へ京都の観光地を紹介する内容を考えていく。質問を通して5年生の紹介を深められるように、質問にも目を向けられるように授業を進めていく。<br>・帯学習で Picture describing や Small Talk 等を行い、既習表現の活用、即興性、質問力を高めていく。   |
| 【小小・小中連携】 | ・6年生の時に録音した京都の観光地紹介動画を見ることで、小学校での学びとのつながりを感じ、よりよい発表にしようという意欲をもったり、以前との変化に気付き成長を感じたりできるようにする。<br>・小中連携授業で、第5学年の生徒の紹介内容への質問やアドバイスを通して、第5学年の生徒が成長していく姿を第7学年の生徒が実感できるように、交流前後の第5学年の生徒の紹介を録画した映像を確認し合う。その結果、第7学年の生徒の自己有用感や自己効力感を高め、学習へのモチベーションを高めることにつながるようにする。                         |

## 6 指導計画(記録に残す評価を行わない時間にも、目標に向けて指導を行う。また、生徒の学習状況を全時間において確認し、メモ等をとっておく。)

| 時           | 指導計画   | 評価(記録に残す評価) |
|-------------|--|-------------|
| 適時          | Small Talkなどの活動を通して、既習表現の活用をすることができる。<br>文法事項の定着を目指した活動を通して、既習文法を理解することができる。                     |             |
| 1・2         | 1年間の思い出を伝え合うために、過去の状態や気持ちを尋ねたり答えたりすることができる。  |             |
| 3・4         | 過去のある時点でしていたことを説明したり、尋ねたりすることができる。   |             |
| 5・6         | 過去のある時点でしていたことを説明したり、尋ねたりすることができる。相手のことをよりよく知り思い出を共有するために、1年の思い出が書かれた文章を読んで必要な情報を読み取ることができる。     |             |
| 7<br>(本日5限) | TS 京都散策 WR を経験したことがない5年生に分かるように、過去形を用いながら WR の紹介を考え、外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるような京都の魅力を伝えることができる。 | 話[発]:思態     |
| 8<br>(本日6限) | 5年生に昨年の TS 京都散策 WR のことについて分かりやすく説明することができる。<br>5年生が京都の観光地について話す内容をもとに、質問や感想を伝えることができる。           |             |
| 9           | TS 京都散策 WR で、外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらうために、京都の観光地の説明を事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話すことができる。       |             |

## 7 本時について(7/9)

(1) 目標 TS 京都散策 WR を経験したことがない5年生に分かるように WR の紹介を考え、外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように京都の魅力を伝えることができる。

### (2) 展開

|    | 生徒の活動  | 指導者の活動  | *留意点 ◇支援  |
|----|--|---|---|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつ</li> <li>○Warm-up Small Talk<br/>「昨年の TS 京都散策 WR」</li> <li>1 写真提示</li> <li>2 ペアで交流(2分)</li> <li>3 全体交流</li> <li>4 ペアワーク(2分)</li> <li>5 全体交流</li> <li>6 ペアワーク(2分)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・5 年生に分かってもらうために、どのように工夫をすれば良いのか全体交流の時に確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>We went to Kyoto by train.<br/>We had lunch at Okazaki Park.<br/>It was delicious.<br/>We went to Kiyomizu-dera Temple.<br/>We talked to some foreigners.<br/>They were from Canada.<br/>We had wonderful time.</p> </div>   | <p>*次の時間に、5年生にWRのことを教えるという目的と相手意識をもって活動に入るよう促す。</p> <p>*全体交流では、実際に生徒が使っている表現を取りあげ、2回目に話すときに使える表現を増やせるように共有する。</p>   |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の流れとめあてを確認する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>TS 京都散策 WR を経験したことない5年生に分かるように WR の紹介を考え、外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように京都の魅力を伝えることができる。</p> </div>   |   |   |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○Communication time①<br/>小学6年生の時に紹介した場所や内容を思い出すために、ロイロノートで過去の自分に対面する。</li> <li>○中間交流<br/>7年生らしい紹介にするにはどのような表現が出来るかを考える。</li> <li>○Step by step<br/>6年生のままにならないように、There is/There are など新しい表現も入れて考える。</li> <li>○Communication time②<br/>ペアで交流</li> <li>○全体交流</li> <li>○Communication time③<br/>別の相手とペアで交流</li> </ul> | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>We have Kinkakuji in Kyoto.<br/>You can see the golden temple.<br/>It's beautiful.<br/>You can eat soba.<br/>It's delicious.</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>・There is/There are の文章が入れられることについて、全体交流を通して気付かせる。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;"> <p>We have Kinkakuji in Kyoto.<br/>You can see the golden temple.<br/>It's beautiful.<br/>There are nice shops around there.<br/>There are many restaurants, too.<br/>You can eat soba. It's delicious.</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>・聞く側に観光客の視点を持って質問することの大切さを意識させる。<br/>・質問内容を共有することで、内容の改善に気付けるようにし、次の活動で使えることを確認する。</p> </div> </div> | <p>*音声がない生徒用に、代表生徒の音声を全体で聞き、自分の紹介に生かすことができるようする。</p> <p>*There is 固有名詞 in Kyoto. が出てくることが想定される。その時は固有名詞には使えないこと、We have が適切な表現だということを説明する。</p> <p>*良い発言があった時は、その場で共有する。</p> |
| 終末 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○録音<br/>6年生時の紹介用写真を使用し、本時で紹介した内容を録音する。</li> <li>○次の活動確認、振り返り<br/>振り返りシートに記入する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問されたことや感想を伝えてもらったことから考えた、京都の観光地紹介を録画することで、6年生からの変容に気付き、メタ認知できるようにする。</li> </ul>  | <p>◇6年生のロイロノートのカードが無い生徒用に観光地カードを用意しておく。</p>   |

### (3) 評価(記録に残す評価)

|                      |  |
|----------------------|--|
| 話[発]:思態              | 外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるような京都の魅力を友だちに発表している姿を確認する。(行動観察・音源・振り返りカード) |
| 「おおむね満足できる」状況と判断できる姿 |  |

We have Kinkakuji in Kyoto. You can see the golden temple. It's beautiful. There are nice shops around it. There are many restaurants. You can eat soba. It's delicious.などの表現を用いて、京都の観光地を紹介するために、既習表現を生かして内容を整理したり、関係ある内容や聞き手が興味をもてるような情報を付け加えたりするなどして発表している。